



一歩 みんなのIPPO

令和2年10月26日(月)
四季が丘小学校 研究推進便り

10月15日(木)に、広島県教育委員会の安達 裕指導主事、広島県西部教育事務所の小西宏明指導主事、廿日市市教育委員会の金本旭史指導主事をお迎えし、学力フォローアップ校事業第4回授業研究会を行いました。

今回は、3度目のブラッシュアップを行った第1学年の算数科「たすのかな ひくのかな」の研究授業をもとに、思考の流れに沿ったつまずきについて学ぶことができました。

研究協議会では、対象児童が問題を理解する過程でつまずいているのは、「数値の理解」であるのか、「内容の理解」であるのか、「関係性の理解」であるのかを捉え、そのつまずきに応じた手立てや支援を講じていくことを共通理解できました。

また、これまでの実践から見えてきた「3年間の取組でうまくいったという事例」と「本校の取組のアピールポイント」について全体で協議することができました。

本校は「学びの変革」パイロット校事業と学力フォローアップ校事業を両輪で進め、さまざまな成果を出すことができました。

これは、全教職員で組織的に取り組んできたからこそだと考えています。先生方の記述によると、フォローアップ校事業での好事例は様々で、日々の取組からのつながりを感じました。しかし、やはり、本事業でうまくいったという事例は「つまずきの要因分析」が充実したことであると思います。「気になるあの子」の主体的な学びをどう促すか・・・それには「つまずきの要因分析」が必要不可欠です。今後も、変容を見取るデータを蓄積し、学習のつまずきの要因を丁寧に捉えていきましょう。

本校のアピールポイントについては、「前向きな研究協議」「学校全体で研究に取り組む体制」という記述がたくさんありました。そのことを教育実習生が感じ取り、発表するという場面もありました。とても嬉しい瞬間でした。

指定が外れても、メンバーが代わっても本校の組織的な研究体制を維持できるようにしていきます。

第3回の授業研究会に引き続き、今回も「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の活用についてのお話がありました。次回、第5回の授業研究会(算数科:第4学年「面積」)の学習指導案の評価に係る部分の様式を少し変更しています。来年度につなぐ第一歩!です。



村岡 清美先生の授業からの学び ～授業改善に向けて取り組むこと～

(若手の先生より)

- ・それぞれの特性やつまずきの要因に合った手立てが準備してあるのがよいと思いました。児童のつまずきの要因をしっかりと把握していくことが大切なので、机間指導やコグトレなどを利用してつまずきを発見したいです。
- ・コグトレを早速やって、認知の面からアプローチしていきたいと思いました。次の研究会に向けて自分のやるべきことが明確になったので、ゴールに向かって手立てを考えたいと思いました。

(中堅の先生より)

- ・指導案に書かれている「つまずきとその要因」を生かし、不十分なところを補うようにしていきたいです。
- ・どこの段階でつまずいているのか、学習状況をしっかりと把握する。
- ・個への支援と同時に(並行して)UDの視点を取り入れる。

(ベテランの先生より)

- ・本時の学習に必要な土台となる内容はクラス全員で共有して次へのステップにうつる。
- ・コグトレなどを使って、つまずきを分析していきたいです。改めてつまずきの要因を捉えることの大切さがわかりました。

今回の研究授業の振り返りには、コグトレについての記述がたくさんありました。校内研修が終わってすぐにオリジナルのコグトレプリントを作成した若手の先生、その日の夜にアマゾンで購入したベテランの先生・・・このような素敵な姿が見られたのも村岡先生の実践があったからこそです。

VRを活用した体育科の授業づくり

東京学芸大学の鈴木直樹先生からのご提案で、高学年でVRを活用した跳び箱の授業を行っています。ヴァーチャルに味わった跳び越した動きの感じを、リアルな体験の中で探求し、跳び箱運動の楽しさを味わいながら、仲間と豊かに関わり、活動を工夫しながら動き方を改善することができるという目標に向かって授業を展開しています。授業の様子については、また報告します。

